

イヌワシ タカ目タカ科  
*Aquila chrysaetos* (Linnaeus, 1758)

鳥取県：絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)  
環境省：絶滅危惧ⅠB類 (EN)



撮影：徳永年彦

- 選定理由：県内での繁殖地は中国山地沿いに限られ、生息数、繁殖成功率も著しく減少し、絶滅の危機に瀕する（現在では数つがい程度）。
- 特徴：全長90 cm、翼開長200 cmにもなる全身ほぼ黒褐色の大型のワシ。県内でのつがいの行動圏は60-90 km<sup>2</sup>と拡大。急峻な岩壁の岩棚や大木の樹幹などで営巣し、1-2月に2卵産むが、育つのは普通1羽。本来は草原性で、開けた場所で中型の哺乳類、鳥類、爬虫類などを捕食する。
- 分布 県内：東部山岳地帯から大山山系までの落葉広葉樹林帯にある崖壁がそそり立つ急峻な山岳部に生息。県外：北海道、本州に生息（九州、四国では絶滅状態にある）。世界的には北半球に広く分布する。
- 保護上の留意点：落葉広葉樹が主体の自然林の保全、生息地周辺の開発行為の規制、とくに生息域への大規模発電施設などの設置は、生息環境に大きな影響を及ぼすため十分な配慮が必要。生息地内の針葉樹植林地の伐開による狩場の創設、観察者などが生息中心域へ接近しない対策が望まれる。
- 特記事項：国の天然記念物（1965年）、国内希少野生動物種（1993年）、鳥取県特定希少野生動物種（2002年）。
- 文献：20, 57, 94, 95, 96。

執筆：岡垣大志

クマタカ タカ目タカ科  
*Nisaetus nipalensis* Hodgson, 1836

鳥取県：絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)  
環境省：絶滅危惧ⅠB類 (EN)



伯耆町 2017.1.1 / 撮影：徳永年彦

- 選定理由：県下の山林で繁殖するが個体数が少ない。
- 特徴：全長70-80 cmほど、翼は比較的短めで開長150 cm内外、幅が広く後縁にふくらみがある。尾は長めで幅が広く、森林内での飛行に適した形態。後頭の羽毛は長めで冠羽状。飛行時翼下面の黒い黄斑、尾羽の黒褐色の縞模様が目立つ。餌はノウサギ、ヤマドリ、ヘビなど中型の哺乳類、鳥類、爬虫類。
- 分布 県内：標高200 m以上のほぼ全域の、急峻な斜面をもつ山地森林に生息。県外：北海道、本州、四国、九州の山地森林；台湾、中国南部など。
- 保護上の留意点：落葉広葉樹林を中心とした自然林の保護、針葉樹植林地の広葉樹林への転換や、荒廃を防ぐための間伐などの手入れ。シカの食害による下層植生の衰退により、餌動物減少が懸念される。また、森林伐採を伴う開発行為の抑制、とくに、大規模発電施設などの設置は、生息環境に大きな影響を及ぼすため十分な配慮が必要。
- 特記事項：国内希少野生動物種（1993年）、鳥取県特定希少野生動物種（2002年）。
- 文献：20, 48, 103。

執筆：岡垣大志

コアジサシ チドリ目カモメ科  
*Sterna albifrons* Pallas, 1764

鳥取県：絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)  
環境省：絶滅危惧Ⅱ類 (VU)



米子市淀江町 2015.5.13 / 撮影：桐原佳介

- 選定理由：ダムや治水工事で放水量が調整され水面の上昇が抑制され遷移が進行したことで、営巣適地の裸地環境が減少した。また水辺でのレジャーでの人の立ち入りにより、繁殖途中で放棄することもみられる。近年繁殖数が激減し、個体数が減っている。
- 特徴：白いツバメのような形をしており、海岸や湖沼を飛び回り、水中へダイビングして小魚を捕まえる。
- 分布 県内：近年、天神川河口と日野川下流域で繁殖実績があるものの不安定である。以前は千代川河口でも繁殖が確認されていたが、近年の繁殖は確認されていない。県外：日本では本州以南で繁殖。ヨーロッパ、アフリカ、アジア、オセアニア、北アメリカ中部から南アメリカ北部で繁殖。冬季は熱帯地域で過ごす。
- 保護上の留意点：営巣適地の保護および繁殖期における立入制限等の対応が必要である。
- 特記事項：鳥取県特定希少野生動物種（2002年）。

執筆：吉田良平

ブッポウソウ ブッポウソウ目ブッポウソウ科  
*Eurystomus orientalis* (Linnaeus, 1766)

鳥取県：絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)  
環境省：絶滅危惧ⅠB類 (EN)



南部町 2017.5.16 / 撮影：桐原佳介

- 選定理由：1990年代のほぼ絶滅状態から少し回復したが、個体数は少ない。
- 特徴：ハトより少し大きい。足と口ばしが赤く、体は濃青色。5月上旬に広葉樹や針葉樹の里山に渡来し繁殖する。ほとんどが巣箱で繁殖するが一部自然木での繁殖も確認されている。ゲググッと鳴き、大型の甲虫類やトンボ、セミなどを餌とする。樹洞の減少や巣穴として利用していた木製電柱のコンクリート化で急激に減少したが、巣箱の設置で個体数は少し回復している。
- 分布 県内：日南町、南部町、日野町、琴浦町、三朝町では巣箱で繁殖。県外：本州以南の各地で記録がある。南部町の個体がインドネシアで越冬していることはわかっている。
- 保護上の留意点：営巣可能な大きな樹洞を確保するなど里山の自然を守ること。巣箱の設置は個体数の増加に有効である。
- 特記事項：鳥取県特定希少野生動物種。

執筆：土居克夫

ミナミアカヒレタビラ コイ目コイ科  
*Achellognathus tabira jordani* Arai, Fujikawa & Nagata, 2007

鳥取県：絶滅危惧I類 (CR+EN)  
環境省：絶滅危惧IA類 (CR)



婚姻色が発達した雄：小松谷川 2021.5 / 撮影：坂本大藤

- 選定理由：県内唯一の生息域の主要個体群が、近年急速に衰退している。
- 特徴：種アカヒレタビラは日本固有で、全長8 cm程度、地色は淡い青紫色で胴部後半に青色縦帯、鰓蓋上部後方に暗青緑色斑がある。雑食性で、寿命は長くても3年。産卵期は5月前後、産卵母貝にはカラスガイ族（ヌマガイ・タガイ）を利用。形態と生態が地理的に変異し、5亜種に区分されている。山陰と北陸に分布する本亜種ミナミアカヒレタビラ *jordani* では、婚姻色が発達した雄は背鰭・臀鰭外縁が桃色になり、稚魚・未成魚の背鰭には淡い黒斑がある。
- 分布 県内：日野川水系（法勝寺川など、小松谷川では絶滅寸前）。鳥取市（多鯨ヶ池）では絶滅した。県外：鳥根県。北陸（福井県、石川県、富山県）に分布する本亜種は、DNA塩基配列が山陰群とは明らかに異なる。
- 保護上の留意点：鳥取県では系統的な生息調査が最近まで皆無で、個体群の実態把握が急務。生息域での河川工事対応のみならず、保全生態学に基づく積極的な生息地管理・個体群管理（系外保全も含む）が必要。
- 特記事項：鳥取県特定希少野生動植物、鳥根県特定希少野生動植物。
- 文献：1, 29, 30, 47, 48. 執筆者：星川和夫・坂本大藤

ウスイロヒョウモンモドキ 鱗翅目(チョウ目) タテハチョウ科  
*Melitaea protomedia protomedia* Ménétrès, 1857

鳥取県：野生絶滅 (EW)  
環境省：絶滅危惧IA類 (CR)



鳥取市佐治町 2015.7.3 / 撮影：永幡嘉之

- 選定理由：すでに野外絶滅したが、再導入の可能性が残されている。
- 特徴：ススキの優占する乾性草原に生息する。成虫は6月下旬から7月に発生。幼虫の食草はオミナエシとカノコソウで、根元近くの葉裏に産卵、幼虫は枯葉で巣を作り越冬する。
- 分布 県内：1960年代までは岩美町から日南町まで連続的に分布していたが、1980年代後半から激減し、最後の生息地となった鳥取市佐治町でも2015年の確認を最後に絶滅した。県外：兵庫県～鳥根県（現存する生息地は1カ所のみ）；アジア大陸北部～朝鮮半島。
- 保護上の留意点：県内最後の生息地では、火入れの中止による遷移の進行およびシカの食害による植生の単純化によって絶滅したが、かつての同一個体群の一部が県境の岡山県側に残存しており、再導入を前提にシカ防護柵の設置および草刈りによる植生の回復が継続されている。幼虫の越冬場所での火入れは避けるべきだが、草原全体の遷移を抑制し食草を増加させるために、草原を区分して火入れと草刈りとを併用することが望ましい。
- 特記事項：種の保存法指定種、鳥取県特定希少野生動植物。
- 文献：206. 執筆者：永幡嘉之

カラスガイ イシガイ目イシガイ科  
*Cristaria plicata* (Leach, 1814)

鳥取県：絶滅危惧I類 (CR+EN)  
環境省：絶滅危惧IB類 (EN)



多鯨ヶ池 2011.9.10 / 撮影：福本一彦

- 選定理由：生息地が限定され、個体数も少ないため。主要な生息地の1つであった湖山池では2012年以降確認されておらず絶滅。
- 特徴：殻は楕円形で平たく、殻長は20 cmを超える大型の二枚貝。殻頂の両側背縁に翼状突起があり、とくに幼貝では後背縁の翼状突起が発達するが、成貝では目立たなくなり、付け根にしわ状の褶曲がある。池の軟泥域に生息。繁殖期は晩秋から早春。幼生の宿主はヨシノボリ属、ウキゴリ属等で、鰭や鰓に寄生する。
- 分布 県内：多鯨ヶ池ほか。県外：北海道南部、本州；中国、ロシア、ベトナム等。
- 保護上の留意点：多鯨ヶ池では外来魚が優占し、本種の繁殖成功率の低下が懸念されることから、継続的な外来魚駆除が必要。また、他水域では泥流し等、底質環境の改善が必要であり、再生産可能な環境を復元、創出していく必要がある。
- 特記事項：鳥取県特定希少野生動植物。
- 文献：10, 25, 59, 82, 83. 執筆者：福本一彦